

## 2012年度 学校評価(自己評価)

2012年度は次の各項目を重点目標として設定し、その他の教育活動も含めさらなる向上を図った。

1. 日常教育活動の充実整備
2. 完成年度を迎えた中学部の運営
3. 中学部生の高校への接続準備
4. 2013年度カリキュラム改訂準備
5. 学部への進路指導、導入教育の充実と各学部との意思疎通の強化
6. より開かれた学校へ
7. Waseda Vision 150 へ向けて
8. 第2期工事の順調な進捗と第3期以降の具体化
9. 高等学院教育環境整備充実募金の活動促進
10. 大地震への備えと生徒教職員の安全確保

以下、各目標についてその遂行状況を概観する。

### 1. 日常教育活動の充実整備

教育活動では教育内容とその結果が問われるところではあるが、その実をあげていくためにもハードの整備は大切である。第2期工事が始まり、2012年度以降は再度、工事の環境の中で学院教職員はじめ、大学の担当者と相談しながら、様々な教科活動、教科外活動を行っていくことになった。さまざまなことを考慮しながら、普通教室、特別教室等、すべての施設の効率的かつ適切な利用を工夫し、生徒の不便をできるだけ少なくなるよう心がけた。教職員の学校内外の諸活動を通して、結果的に教育内容・生徒指導、生活安全などに還元されるよう、教員の授業研究を含めた研究、研修その他活動を行った。一見繰り返しのようみえる活動ではあるが、日々努力を怠らないよう努めた。

### 2. 完成年度を迎えた中学部の運営

いよいよ完成年度を向かえ、中学部は1年生から3年生までそろった。そのことにより、芸術鑑賞教室、学習発表会、音楽祭、クラブ活動などが昨年以上に充実したものとなった。第1期生が最上級生として1年生の模範となることができた。また、宿泊研修も3年間の完成を迎え、中学部開設前に期していた成果をあげることができた。教員配置も整ったが、組主任、学年付き担当、教務担当の各教員、またサポートする職員も、それぞれ役割を適切に果たしていた。

### 3. 中学部生の高校への接続準備

2012年度末には1期生全員が卒業し、進学することができた。成績面においては全員が高い成績をおさめているわけではないが、原級相当程度の成績が低い生徒は見られなかった。むしろ、成績面でもリーダーシップの面でも抜きん出た生徒がおり、高校進学後、様々な面で高校の中心となって活躍していくことが期待できる。

### 4. 2013年度カリキュラム改訂準備

2013年度施行のカリキュラムの改訂がまとまり、諸手続きを含め、準備が完了した。単位数の関係で2012年度までのカリキュラムにあった1・2年生の一部の登校時間の変更がなくなり、2013年度新入生からは、月曜日から金曜日まで6時限、土曜日4時限の34時限体制となる。英語や数学などの授業時数が増えることなどの内容を含むが、基礎学力の確保と、問題発見・課題解決、発信を含むコミュニケーション重視型の教育内容を念頭に、カリキュラム、カリキュラム外の諸活動を通して教育展開をしていくことになる。

### 5. 学部への進路指導、導入教育の充実と各学部との意思疎通の強化

各学部もそれぞれ特色ある改革を急速に進めており、学院に対する「注文」、「希望」は多岐にわたる。基本的には各学部の事情によってその内容は異なるものの、総じて、英語コミュニケーション能力、適切な文章作成能力、プレゼンテーション能力、論理的思考力などを求めており、各学部、あるいは大学全体の要望にも応えられるようしなければならない。意見交換を進めて学部との意思疎通をさらに密にしていく。

### 6. より開かれた学校へ

今年度は初めてコリブリプログラムにおいてフランスから生徒を迎え、本学院からも送り出すことができた。さらに、3年目となる韓国ソウルのハナ高校でおこなわれた国際シンポジウムにも参加することもできた。生徒の視野を広めるために、国内他校だけでなく、大学、海外、地域、企業、官公庁などと連携することが大切である。たとえば、海外からの留学生受け入れ、海外からの生徒、教職員の学院訪問、学院生の海外留学、海外訪問など国際交流は大変重要な意義がある。その経験は、生徒の成長と同時に、その生徒たちを取り巻く他の生徒たちへも、貴重な刺激となると思われる。地域社会との連携、その他学校外へと視野を広げることは、附属校ならでの工夫として、今年度も重視してきた。クラブ活動の対外試合も同様である。これからも重層的にオープン化を展開していきたい。早稲田大学は久しく門のない大学と呼ばれていた。学院もその精神においては、これからも、「門のない精神」を続けていきたい。

## 7. Waseda Vision 150 へ向けて

Waseda Vision 150 が 2012 年 11 月 15 日に発表され、大学全体で改革が進められている。高等学院においても早稲田大学全体の動きを踏まえて、今後さらにグローバル化を進め、世界に貢献する意志をもって、人類全体の幸福を目指したリーダー育成を目指している。本年度、高等学院においてもとりまとめを行い、HP 等を通して公表した。これからはその内容を深化、充実させ、より多くの成果をあげていく必要がある。

## 8. 第 2 期工事の順調な進捗と第 3 期以降の具体化

第 2 期工事が始まり、2012 年度は生徒の安全確保につとめた。また学校行事など開催では適切な動線確保に注意を払う必要があった。学校説明会は依然として大隈講堂で行ったが、中学部受験生を対象に施設見学会を催すなど、工夫してサービス低下を払拭すべく努力した。

## 9. 高等学院教育環境整備充実募金の活動促進

募金額が 2012 年度末で約 3 億円に達したが、今後も高等学院の教育環境を充実させていくために進めていく。2014 年度が最終年度なので来年度も精力的に活動する。とりわけ今年度も同窓会からは多額のご支援をいただいたことに感謝している。

## 10. 大地震への備えと生徒教職員の安全確保

東日本大震災から 2 年目となったが、予想される大地震にできる限り備えてきた。備蓄品、訓練、緊急時対応施設など、配慮すべきことが多くあるが、大学の関係箇所と学院事務所が連携しながら、学校全体で前年度以上の準備ができたと考えている。

## 2012年度 保護者・生徒を対象とした学校評価アンケートについて

2012年度の重点目標の内「1. 日常教育活動の充実整備」をより一層推進するため、初めての試みとして、保護者・生徒を対象にしたアンケートを実施した。以下（1）質問項目、（2）アンケート結果、（3）アンケート結果の分析と改善点等、を述べていく。

### （1）質問項目

#### I 学校全体の取り組みについて

- I-1. 高等学院は生徒の自主性・自立性の育成に努めている
- I-2. 高等学院は高大一貫教育の推進に努めている
- I-3. 高等学院は国際交流の推進に努めている

#### II 学習指導について

- II-1. 指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている
- II-2. 生徒の進度やレベルに合った授業が行われている
- II-3. 生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている
- II-4. 適切な評価が行われている

#### III 生徒指導について

- III-1. 組主任は生徒の欠席・欠課・遅刻の状況を把握し、生活面の指導を適切に行っている
- III-2. 組主任は生徒の成績を把握し、学習面のサポートを適切に行っている
- III-3. 組主任は進級・進学などのルールについて、保護者・生徒へ適切に説明を行っている
- III-4. 組主任は学部・学科などの情報を保護者・生徒に提供し、適切に進路指導を行っている

#### IV クラブ活動について

- IV-1. 生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている
- IV-2. 部長（顧問）は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている
- IV-3. 部長（顧問）は部活動の内容について、保護者へ適切に情報を提供している

#### V 授業や勉強へのあなたの取り組みについて【生徒のみ】

- V-1. 私は授業に積極的に取り組んでいる
- V-2. 私は授業時間以外にも積極的に勉強をしている

## (2) アンケート結果

別紙の表およびグラフを参照していただきたい。

## (3) アンケート結果の分析と改善点等

### I 学校全体の取り組みについて

保護者・生徒ともに概ね高評価が得られている。とくに質問項目1.「高等学院は生徒の自主性・自立性の育成に努めている」においては保護者全体で61.5%が、生徒全体で44.6%が「そう思う」と回答しており、本校の目指す教育理念が保護者・生徒に理解されていることが確認できる。今後も生徒の自主性・自立性の育成を念頭に置きながら、高大一貫教育の推進・大学との連携強化に努めなければならない。また質問項目3.「高等学院は国際交流の推進に努めている」では、「ややそう思う」が保護者全体で43.9%、生徒全体で38.8%と最も多い。グローバル社会を見据え、今後さらに国際交流を推進することはもちろんだが、それとともに保護者への情報提供も活発に行う必要があると思われる。

### II 学習指導について

保護者・生徒ともに質問項目3.「生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている」に対する評価が相対的に低い。ただ低評価（「そう思わない」）ということではなく、「どちらとも言えない」が最も多い（保護者全体34.1%、生徒全体32.2%）。これは言い換えれば、授業における教員側の意図や工夫が上手く生徒・保護者へ伝わっていないと解釈できる。同様に、質問項目2.「生徒の進度やレベルに合った授業が行われている」において、特に高校生の回答が3学年とも「どちらとも言えない」が最も多い（高校生30.2%）。今後はこれまで以上に生徒一人ひとりの進度やレベルを適切に捉え、生徒の学力を伸ばす授業を意識して行う必要があると思われる。

### III 生徒指導について

保護者・生徒ともに概ね高評価が得られている。4.「組主任は学部・学科などの情報を保護者・生徒に提供し、適切に進路指導を行っている」について中学部1年生の回答として「分からない」（27.9%）が、2年生の回答として「どちらとも言えない」（28.3%）が最も多くなっている。これは中学部1・2年生においては、まだ大学進学についてのイメージを持ちにくいという年齢的な問題が考えられる。一方、高校2・3年生の回答で「そう思う」が最も多くなっている（高校2年37.9%、高校3年31.8%）。これは学年が進行するに従って、適切な進路指導が行われていることを表すものである。ただ、卒業生全員が早稲田大学へ進学することが前提となっている本校では、中学部の早い段階から生徒へ意識づけの為にキャンパスツアーを実施しているが、今後内容を再検討し、自身の進路について考えさせるきっかけをつくる必要があることは確かだと言える。

#### IVクラブ活動について

保護者・生徒とも概ね高い評価が得られている。強いていえば質問項目3.「部長(顧問)は部活動の内容について、保護者へ適切に情報を提供している」が相対的に低い評価となっている(「ややそう思う」が最も多く、保護者全体26.3%、生徒全体25.3%)。今後は生徒との情報共有だけではなく、保護者とも活動内容について情報を共有することを、より一層意識して行うことが求められている。また、このことが、クラブ活動をさらに活性化することにも通じると思われるが、自律の妨げにならないよう留意する必要がある。生徒の安全面に配慮し、部員とコミュニケーションを図りながら、保護者とも活動内容を共有しつつ、クラブ活動を行っていくことが今後も重要であろう。

以上